

泉佐野市出身のオサさんによる 四コマ漫画がスタート!

問合せ 人権推進課

今月号から、泉佐野市出身の漫画家・イラストレーターのオサさんによる人権をテーマにした四コマ漫画「みんなのじんけん」がスタート！
来月号から「人権の広場」のコーナーに掲載しますので、お楽しみに！



©オサ



※漫画・イラストはすべてオサさんの作品です。

オサさんプロフィール

泉佐野市出身。生活総合情報サイトAll About (オールアバウト) にてWeb漫画を掲載中。また、アメリカの新聞「日刊サン」にて四コマ漫画「宇宙から見れば」を連載中。会社案内、商品PR・カットイラストの制作など。15歳で若年性関節リウマチを発病、体全体の関節に激痛が走り、身体障害者になる。「仕事」や「生活」を続けることが困難になり、うつ病を発症する。自殺願望に襲われる日々の中で、自分の得意を生かすことを「人生の仕事」とすることを決意し、漫画家・イラストレーターとしての活動を始める。現在は絵が苦手な人でも簡単なイラストが学べる「絵心ワークショップ」や、自身の体験をベースに障害と人権をテーマにした講演活動なども行っている。



オサさんホームページ「OSACOMIC」▶



「泉佐野市 人権のつどい」でオサさんにご講演いただきました

昨年12月6日(出)、エブノ泉の森 小ホールで開催された「泉佐野市 人権のつどい」において、オサさんを講師に迎え「得意を活かす生き方」をテーマにご講演いただきました。

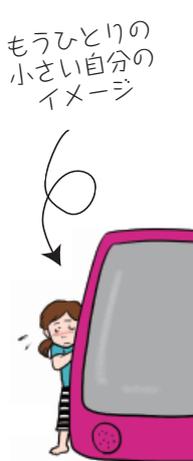
15歳という若さで全身のほぼ全ての関節が腫れて激痛を伴う「若年性関節リウマチ」を発症し、様々な困難を抱え、長期間にわたり体と精神が蝕まれていく日々を過ごされたオサさん。オサさんが行き着いた「得意を活かす生き方」について、昨年12月後半に放送された泉佐野市行政情報番組「さのテレ！」でのインタビューの一部をご紹介します。

※市公式YouTubeチャンネル（裏表紙の二次元コード）から視聴可能です。



◆オサさんが「得意を活かす生き方」に行き着いたきっかけを教えてください。

オサさん うつ病とリウマチですごく苦しんでいた時に、これはイメージの世界と想ってもらえたら分かりやすいと思うんですが、自分の中にあるもうひとりの小さい自分が目の前に現れたような気がしたんですね。それまでの私はやりたいことをやれる人生という選択肢が無かったのですが、絵を描いて欲しいとか、漫画を描いて欲しいとか、その子が言うことをちょっと聞いてあげようかなという気持ちになりました。まずは自分ができることで、第一歩を踏み出そうと思いい、それをきっかけに外に出て行ったりするようになりました。そしてできることをやって、振り返って自分を見てみたら、結局、得意なことをやっていたんです。



◆例えば学校などで、絵を描くのが得意でも、人と合わせるのが苦手なお子さんがいったりすると思うんですが、どう声をかけるといいでしょうか。

オサさん 私は、全員と仲良くできなくてもいいんじゃないかと思っています

んです。もっと大事なものは、例えば絵が得意なお子さんの場合、絵が好きとか、得意っていうのを、自分で自覚してるといっただけでもう宝物なんです。それを自分で自覚してるだけで、すぐラッキーなことだと思っし、それは武器にも変わるの、磨き上げて大事に育ててほしい、宝物やから手放さんといてねって、声をかけてあげたいですね。

◆今回のテーマでもある「得意を活かす生き方」のオサさん流の極意を教えてください。

オサさん 自分の得意が何かかわからない人もいらっしやると思うんですが、得意なことをまず自分で自覚する、わかるっていうことがスタートだと思っんです。私は車の運転免許を持ってるんですが、シヨッピングモールと病院にしか行けないんです。今日も父に送迎してもらったりとかしてね。免許をもっけていても、運転できないんです。なので、運転できる人が普通であると思ってることも、実はすごい才能なんですよね。私には絶対できないことなので羨ましいんです。それを自分は得意があるんだ、運転できるんだって自覚すること、そしてそれを何か人の役に立つことに使えないかという次のステップを考えて、じゃあ車のお仕事を



しようかなとか、誰か乗っけていってあげようかなっていう人の役に立つことで繋がって行くので、自信にも

なってくるんですよ。そうして自分を満たしてあげたり、満足感や充足感を得たりすることもできるんです。まずは自分の得意、そして苦手なことも探して、自分を知るといっ作業したら、どんどん得意が見つかっていくと思っいます。

◆その得意分野をたくさん見つけることから、まずはみなさんに始めてもらいたいですね。今日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。

